

## 生徒会長に聞く

電気科 3年  
渡邊壮さん 南三陸町志津川



Takeshi Watanabe

新たな一歩を踏み出しました。新しい校訓は、産業について学ぶのに必要なものだと感じています。まずは目標を立てて挑戦したいと思っています。新たな高校では柔道部への入部を考えています。

## 新入生に聞く

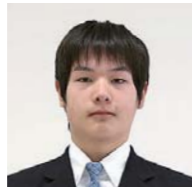


Masayuki Takahashi

農業科 1年  
高橋正雪さん 津山町入沢

将来すし職人になりたいのと、家が農家なので農業科を選びました。米や野菜づくりの技術を学んでいきたいです。部活は家庭部に入部する予定で、いろいろな料理を学びたいと思っています。

福祉科 1年  
三浦聖斗さん 中田町金谷



Masato Miura

将来、人を助ける仕事をしたかったので、福祉科を選びました。また、東和中でアーチェリー部に所属、高校でもやりたかったのでこの学校を選びました。全国大会を目指して頑張ります。



Daiki Kumagai

情報技術科 1年  
熊谷大輝さん 中田町大柳

中学でパソコン部に所属、電子情報に興味があったことと、姉が米谷工情報電子科で、いろいろ話を聞いて興味深くなりました。将来は、在学中に学んだ事が多く生かせる仕事に就きたいです。

電気科 1年  
首藤新さん 東和町米川4区



Arata Syutou

小さい頃からモノづくりの仕事をしている父を見て、自分もその道に進みたいと思いついて選びました。卒業後は、関東方面で地下鉄の配線などに携わる仕事がしたいと思っています。



Kasumi Fujiwara

商業科 1年  
藤原可純さん 米山町六軒屋敷

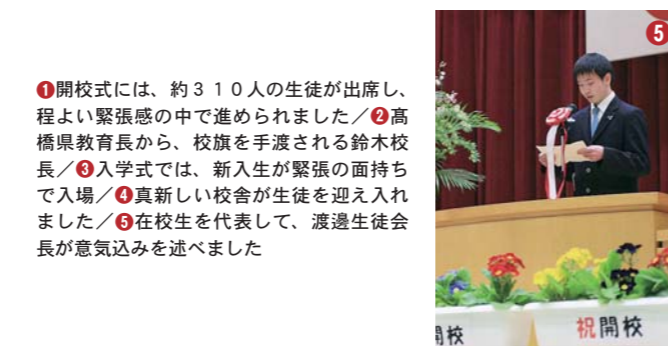
将来公務員になりたいので、商業の知識を習得し生かしたいと思いついてこの学校を選びました。また、部活動も豊富なところが魅力でした。今のところ、アーチェリー部に興味があります。

機械科 1年  
千葉唯杜さん 迫町赤沼



Yuito Chiba

プラモデルや想像してモノを作るのが好きなので、将来そういった職業に就きたいと思いついて機械科を選びました。自分で決めた進路なので、しっかり勉強していきたいです。

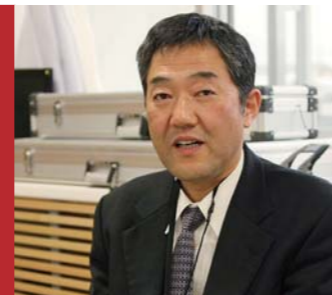


①開校式には、約310人の生徒が出席し、程よい緊張感の中で進められました。②高橋県教育長から、校旗を手渡される鈴木校長。③入学式では、新入生が緊張の面持ちで入場。④真新しい校舎が生徒を迎え入れました。⑤在校生を代表して、渡邊生徒会長が意気込みを述べました。



## Principal Interview

登米総合産業高校  
鈴木琢也 校長  
Takuya Suzuki



まずは、開校にあたり同窓会や地元企業をはじめとする地域、市など多くの皆様のご協力をいただきました。皆さんの力添えがあったからこそ、無事にこの日を迎えることができました。この場を借りて御礼申し上げます。

この学校は校舎だけではなく、その取り組みも新たなものになっています。教育活動での特色は連携と専門性の追求です。学科間連携では、自分の学科だけではなく、違う学科の内容も学習します。例えば、福祉科の生徒が、機械科の内容を学ぶことで、福祉分野に必要な機械を開発する

ことなどが期待できます。専門性の追求では、市内の企業に協力いただき、企業、工場見学や職場体験、実践指導をいただくなど、専門分野を追求した取り組みを予定しています。地域とともに、視野が広く、懐の深い産業スペシャリストの育成を目指しているからです。

校訓である「高志・挑戦・創造」は、生徒だけではなく、学校と教師にも向けられています。学校に関係する全ての人たちと、統合3校の歴史や伝統とともに、新たなものをつくっていきたくと思っています。

登米総合産業高校は上沼高校の敷地に新設。開校式には、約310人の生徒のほか県や市の関係者が出席し、はじめに高橋仁宮城県教育長が開校を宣言した。このあと、鈴木琢也校長が「産業界に貢献できる人材を育成し、地域の期待に応えるよう全力を尽くしていきたい」と式辞を述べた。続いて入学式が行われ、在校生を代表して、3年生の渡邊壮さんが「力を合わせて第一歩を踏み出しましょう」と意気込みを述べた。午後から開かれた入学式では、布施孝尚市長が「これまで各校が培ってきた精神を継承し、登米総合産業高等学校の校訓である「高

志・挑戦・創造」を胸に、新たな校風や伝統を創造する担い手となっていたいただきたい」と式辞を述べた。新たな高校のキーワードは「連携」。学科間連携と地域との連携。地域との連携に当たっては、当然行政も関わっていく。総合産業高校だけではなく、佐沼高、登米高とも連携し、さまざまな取り組みをしていければ、新たなまちづくりのカタチができるのではないだろうか。合併10周年を迎え、新たな10年に向かって歩みだした登米市。既存3校が一つになって歩み出した総合産業高校。その姿は重なる。このタイミングで開校したのは、偶然ではなく、必然だったのかもしれない。新たな時代、この高校の発展とともに、登米市も発展して行く姿を思い浮かべて。

平成27年4月8日、三つの高校が登米総合産業高校として生まれ変わった。その姿は、新たな時代へ向かう登米市と重なって見えた。

# 新しきを創る幕開け

# 温故 創新